

**<代表値>**

男性：0.39 時間/日

女性：0.45 時間/日

**<代表値のもととなる資料>**

時事通信社（2002）は、2002年11月に入浴に関する意識調査を行っており、その中で1回の入浴時間や1週間の入浴頻度が調べられている。対象者は層化副次（2段）抽出法で選ばれた20歳以上の男女2,000名であり、そのうち実際に回答が得られたのは1,369名である。調査方法は調査員による面接であり、入浴時間に関しては、1回の入浴時間の平均を質問したものである。また、浴槽入浴、シャワー入浴という項目に分けて集計されておらず、報告されている値は、浴槽入浴とシャワー入浴を混ぜた平均1回入浴時間と考えられる。データは、地域、職業、年齢別などに集計されており、全体の平均入浴時間は25.2分である。男女別では、男性23.2分、女性27.0分で女性の方が長くなっている。

入浴時間を10分間隔で7区分した場合の行為者率も示されている。男女ともに行為者割合が高いのは10分～20分未満、20分～30分未満、30分～40分未満の3区分であり、これらの範囲の行為者割合をあわせると、男女ともに88%ほどである。40分以上入浴する人は少なく、その行為者割合は7%以下である。

年齢別では、全年齢階級において、10分～20分未満、20分～30分未満、30分～40分未満の3区分に入浴する人が多く、各時間区分の行為者割合を併せると85.5～90.1%になる。

代表値には、男女別の平均入浴時間（男性：23.2分、女性：27.0分）を時間単位に変換した値（男性：0.39時間/日、女性：0.45時間/日）を用いた。

**<追加的情報>**

風呂文化研究会 都市生活研究所（1999）では、1999年3月にアンケートによる入浴の実態調査を行っている。調査対象者は、年齢、家族構成、性別による偏りが少なくなるように作為抽出された2,100名で、そのうち1,456名から回答を得ている。調査対象者は、TULIPモニターと呼ばれる集団から選ばれ、このモニターの多くは関東エリア1都3県に在住している。集計時は、モニター全体のサンプル特性に合わせてウェイト換算している。主に、夏と冬における入浴時間、入浴スタイル（シャワーのみかなど）、入浴方法などが男女・季節別に報告されている。入浴は、「浴槽入浴」と「シャワー入浴」に分けられ、それぞれの入浴に関する所要時間が記されている。入浴所要時間は、在室時間、シャワーを出している時間、蛇口の水を出している時間、浴槽に浸る時間（浴槽入浴のみ）に分類集計され、季節別・男女別の平均値が示されている。また、入浴に関する意識調査も行われている。

男性の浴室内滞在時間の0.37hr/dayという値は、浴槽入浴の夏と冬の「在室時間」（夏：19分、冬：25分）の平均をとったものである。女性の場合も同様に、浴槽入浴の夏と冬の「在室時間」（夏：20分、冬：28分）の平均値0.40hr/dayである。浴槽入浴の平均浴室内滞在時間では、季節による違いが見られ、男女ともに冬の方が6分ほど長くなっている。シャワー入浴においても、浴槽入浴ほどの違いは見られないが、冬の方が長くなっている。

## 入浴時間

更新日：2007.3.30

季節別平均浴室内滞在時間（分）

		夏	冬
浴槽入浴	男	19	25
	女	20	28
	全体	20	26
シャワー入浴	男	12	13
	女	13	16
	全体	13	15

出典：風呂文化研究会 都市生活研究所（1999）

風呂文化研究会（2000）では、1999年3月（風呂文化研究会 都市生活研究所（1999））の調査に続き、1999年8月に夏の入浴実態に関する調査を行っている。対象者は、都市生活研究所のアンケートモニター「TULIP」から、年齢、性別、家族構成に偏りが少なくなるように作為抽出された1,438名である。その調査によると浴槽入浴の平均浴室内滞在時間は、全体で21分（男性：20分、女性：23分）となっている。シャワー入浴の平均浴室内滞在時間は、全体で14分（男性：13分、女性：15分）である。平均シャワー使用時間（暴露係数ハンドブック：シャワー使用時間の項目を参照）とは異なり、入浴方法（浴槽かシャワー）により、浴室内滞在時間に大きな差があることがわかる。平均浴室内滞在時間の値は、風呂文化研究会 都市生活研究所（1999）のもの比べるとやや長めである。風呂文化研究会（2000）の夏のデータと風呂文化研究会 都市生活研究所（1999）の冬のデータを比較すると、浴槽入浴の平均浴室内滞在時間は冬の方が長い。シャワー入浴の平均浴室内滞在時間は、夏と冬であまり差はない。

また、この調査では年代別の平均浴室内滞在時間も報告されている。全体的に見ると、平均浴室内滞在時間は、浴槽入浴、シャワー入浴ともに若い世代で長い傾向がある。浴槽入浴の場合10代と20代で、シャワー入浴では10代において、男女間に大きな差が見られる。男女間の差は若い世代で見られ、40～60代になるとその差はほとんどなくなる。

年齢別平均浴室内滞在時間（分）

		10代	20代	30代	40代	50代	60代
浴槽入浴	男	18.2	20.5	21.7	20.8	17.7	20.6
	女	28.4	30.9	24.8	21.0	19.1	22.1
	全体	22.8	25.9	23.7	21.0	18.7	21.4
シャワー入浴	男	13.8	14.6	13.0	12.7	11.1	13.5
	女	22.1	19.2	14.9	14.0	13.6	15.2
	全体	18.1	17.1	14.2	13.5	12.5	14.3

出典：風呂文化研究会（2000）

注. 数値はグラフからの読み取りによる。

### <数値の代表性>

◇ 代表値の信頼性：中

サンプルの代表性は認められるが、入浴時間の実績ではなく、入浴習慣を10～20分といった区間として聞いて集計している。

### ◇ 代表性に関する情報

#### 代表値のもととなる資料

時事通信社（2002）の対象者は、層化副次（2段）無作為抽出法で選ばれた 1,369 名である。全国を 12 ブロック（北海道，東北，関東，京浜，甲信越，北陸，東海，近畿，阪神，中国，四国，九州）に分けて対象者を抽出している。また，調査方法は調査員による面接である。

#### 追加的情報

風呂文化研究会 都市生活研究所(1999)の対象者は作為抽出された関東エリア在住者 1,456 人である。また，この調査は 3 月に行われたため，夏のデータについては，回答者の思い出しに基づいている。風呂文化研究会（2000）は，前調査の風呂文化研究会 都市生活研究所（1999）と同様，サンプル数は大きく 1,438 人である。調査対象者は，関東エリア在住者であり，年齢，家族構成，性別による偏りが少なくなるように作為的に抽出されている。

### ◇ 入手できた資料の数

上記の 3 資料のみであった。

### <引用文献>

#### 代表値

時事通信社（2002），入浴に関する世論調査。

#### 追加的情報

風呂文化研究会 都市生活研究所（1999），入浴の実態と意識に関する調査報告書。

風呂文化研究会（2000），現代人の入浴事情 2000－夏の入浴実態調査。

### <更新履歴>

2007.3.30 / 文章の体裁を整えました

### 米国 EPA の暴露係数ハンドブックでの推奨値

米国 EPA の暴露係数ハンドブックには，入浴時間に関連する情報として，浴槽・シャワー時間，シャワー・入浴を含む入浴所要時間，シャワー・入浴直後に浴室で過ごした時間はあるが，直接の入浴時間の推奨値は示されていない。入浴時間に関連するデータは Tsang and Klepeis(1996): National Human Activity Pattern Survey (NHAPS) から引用されている。この調査は，米国 EPA が 1992 年から 1994 年にかけて，米国を代表するように選ばれた 9,386 人を対象に行ったものである。この調査では，1 日の行動場所，活動，また暴露に関連する出来事（個人暴露，世帯の特徴，医療背景）が調べられている。